

学校を飛び出して、
地元で活躍するオトナを取材しよう！

町長というのは 24時間365日仕事なんですよ。

池田町町長
岡崎和夫さん



池田町で町長として働いている岡崎和夫さんに、仕事の難しさややりがいなどについてお伺いしました。

岡崎和夫さんが池田町の町長として務めている役場では、様々な課があり色々な仕事をしています。例えば企業課や、産業課、健康福祉課のほかにも学校教育課や、建設課、環境課、税務課、会計課、水道課など、この他にもたくさん課が多様な仕事をしている所です。

Q：役場の職員は総勢何名なのでしょうか？
庁舎内には103名です。ですが、臨時で働く人やパートそして児童館で働く人や保育園などで働いている人を合わせると412名程います。

Q：役場の中を見学している時に、福祉課について気になったので教えてください。
健康福祉課に名前が変わったんですよ。昔は住民課だったんです。福祉課には何かあるかという児童福祉、障害福祉、高齢福祉などあらゆるものがあります。また、子供手当など国から言われてやるものもあります。また、池田町だけで四億七千万の福祉手当が出ています。池田町は、福祉の町なので障害者の方が健常者の方と同じように生活できるようにやって行かなければなりません。そして、保育園や年金の手続きもきちっとやって行かなければなりません。つまり、福祉課はいろんな方からの相談に臨機応変に対応し、皆が住みやすい町にしていくようにする課です。

Q：今日見学をしている中で役場の中に色々な役割を持った方がいるのが分かりました。その中で今最も力を入れている事業はなんでしょうか？
地方を元気づけるために、企業誘致であるとかふる

任せる。とおっしゃいました。その当時、揖斐郡と一緒にやっていくことを望む人と大垣という大きな都市とやっていくべきだという人との違いです。そして、議員も18人いました。そこで投票をしたところ意見が二つに別れてしまったのです。ですが、私は前の町長と約束していただきました。ですが、私は前の町長と約束していただきました。また、国体で民泊をして住民の皆さんの団結力が深まり、良い方向へ向かいました。そして今こうして池田町が存続できてます。それが一番印象深いです。

Q：これから役場全体で取り組んでいきたい事業は何かありますか？
役場全体では、特に住民の皆さんと仲良くしていきたいですね。やはり協働のまちづくりなので住民の皆さんと対峙してはいけません。もう一つは、子供の数が少ないので出会いの場をつくることです。そしてお年寄りも多いので健康寿命を伸ばすことです。

Q：僕は公務員を目指しています。公務員になるための大切なことや資質を教えてください。
幅広い柔軟性と気配りができる人です。例えば、上司がデータなどで困っていたらすぐに資料などを渡して助けなければなりません。そういった配慮ができる人にならないといけません。つまりマニュアルどおりにしか動けない人になつてはいけません。

Q：今の高校生にメッセージを下さい。
まずひとつは親御さんに感謝することです。今があるのは家族がいて身内、周りの人がいるからという感謝を忘れないでほしいと思います。そして、若い時にあらゆることにチャレンジして欲しいです。嫌々やるのでは無く積極的に取り組むことで得

るの

につくぐらいい下げました。そしたら、その人も理解してくださり丸く収まりました。そして、もともと苦労したのは下水道のことです。はじめ何もわからないので黙って住民の方の話を聞いていました。そうすると住民の方が私が喋らないので怒って机を叩いて怒られました。私も住民の方の話が分かったので、町の基本的な考え方を示させていただきました。そこから交渉して妥結するまで六年かかりました。話し合いの中で嘘や隠し事をしなかったのが乗り越えられたと思います。

Q：町長にお休みはあるんですか？
休みは一日もありません。24時間365日やっています。なので移動の時は必ず身体を休めるようにしています。



Q：四期間町長をやっていて一番印象深い町おこしを教えてください。
平成17年の市町村合併です。池田町がなくなるか存続できるかという大きな問題でした。その時前の町長が体調を崩されて、「大垣と合併するならお前に

を

さと納税の部署であったり、あとは観光交流です。ね。町全体で取り組んでいるのは「福祉の町」「教育立町の町」「観光交流の町」という三本柱です。観光交流も私が町を歩いて良さをPRしています。



Q：町長が役場職員の時代に辛かった仕事や印象深い仕事は何ですか？
役場へ入ったのが昭和41年で最初は税務課に勤めていました。スタートした時は給料が一万三千円でした。何もわからないので最初は給料が一万三千円でした。何もわからないので最初は給料が一万三千円でした。何もわからないので最初は給料が一万三千円でした。

Q：町長が一番辛かった事とそれをどう乗り越えたのか教えてください。
土地買収に企業誘致の関係で行かしていただいた時、地主の人がどうしても譲ってくれず朝昼晩頼みに行っても駄目でした。なので、思い切って頭を土

られるものがあります。引つ込んでないでパツと前へ出てください。それが若い人の特権ですよ。



【感想】

町長のお話の中で「若い時になんでも挑戦して欲しい」という言葉が一番印象に残っています。そうすることで多くの経験を得ることができ、社会に出た時必ず役に立つと分かりました。また今回のプログラムに参加して、仲間と情報を共有する大切さや先言後礼など自分にとって多くの経験を得ることができました。今回の経験をこれから多くの場所ですかしていきけるようにしたいです。最後に、私達のために役場の中を隅々まで、一つ一つ丁寧に課や議会の案内をしてくださった岡崎町長。本当にありがとうございました。

【取材・記事】一年 水上陽大